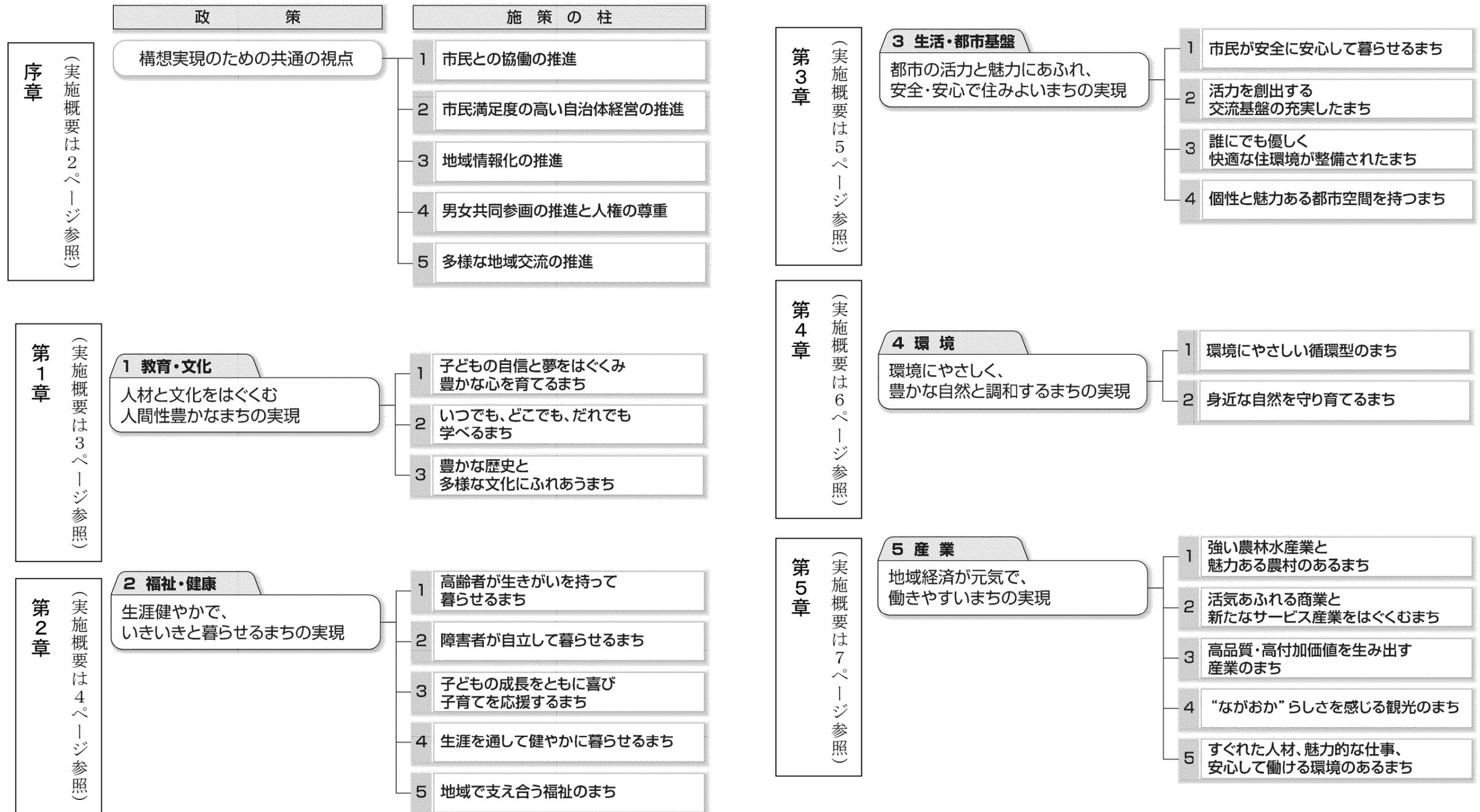


長岡市総合計画後期基本計画の主要施策の実施概要

現行計画の施策の大綱

現行の計画は次の6つの政策から構成されています。
 次ページ以降は、この政策ごとに現在の状況をまとめたものです。



序章 構想実現のための共通の視点

1. 市民との協働の推進

市民活動の活発化にむけ支援を充実

アオーレ長岡や市民協働センターのオープンにより、枠組みに捕われない NPO の自発的な活動が盛んに行われ、相談数や市民活動フェスタ参加団体も増加しています。また、協働によるまちづくりの理念を市民協働条例として制定しました。NPO 法人は、中越大震災後の設立数が 47 法人で全体の約 8 割を占めています。

地域のコミュニティ活動を推進

よいた、中之島、おぐにの各コミュニティセンターを開設。市民力と地域力を活かした協働体制の基盤が広がり、活動も活発化しています。生涯学習推進大学を開講し、地域のリーダーを養成したことが評価され、平成 24 年度に文部科学大臣から「優良公民館表彰」を受けました。

2. 市民の満足度の高い自治体経営の推進

健全な財政状況の維持

職員数の削減、事務事業の見直し、未利用市有地の売却などを実施。18.0%未滿を堅持するとしていた実質公債費比率も平成 21 年度の 16.1%から平成 25 年度には 13.6%へと低減し、健全な財政状況を維持しています。

市政への市民満足度の向上

平成 25 年度に実施したまちづくりアンケート「市政全般に対する市民満足度」では、平成 22 年度に比べ 8 割以上の項目において、市民満足度の向上が見られます。

開かれた市政を推進

アオーレ長岡 1 階に総合窓口を開設し、市民の身近な手続きの窓口をワンフロアに集約しました。平日夜間や土日も開庁することで、市民の利便性を高めました。また、建設工事等の設計書に関する情報提供の制度を整備することで、市民が情報をより容易に入手できるようになりました。

3. 地域情報化の推進

進む行政手続きのオンライン化と高速インターネット環境の整備

電子申請・届出については対象の拡大に努め、公共施設の予約については支所地域の施設についても取り組みを進めたことで、行政手続きのオンライン化という目的はほぼ達成いたしました。

また、市内全域で高速インターネット環境の整備が平成 26 年度中に完了予定です。

4. 男女共同参画の推進と人権の尊重

男女共同参画の推進

「男女共同参画社会基本条例」に基づく「第 2 次ながおか男女共同参画基本計画」を策定し、仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）の普及と DV（ドメスティック・バイオレンス）の根絶に重点的に取り組んでいます。

人権の尊重・啓発活動の推進

「長岡市人権教育・啓発推進計画」を策定するとともに、「人権懇談会」及び「長岡市同和教育研究協議会」を設置し、人権教育と人権啓発を推進しています。

5. 多様な地域交流の推進

県内、全国、海外との交流事業を推進

ホノルル市をはじめ姉妹・友好都市や首都圏在住の市出身者との交流が年々盛んになっています。

また、まちの案内やまちづくりの拠点として、地域住民が自由に設置できる「まちの駅」を推進、現在市内で 63 駅が登録しています。

第1章 人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現

1. 子どもの自信と夢をはぐくみ豊かな心を育てるまち

やる気や学ぶ意欲を育む教育が進展

やる気や学ぶ意欲を育む教育（「熱中！感動！夢づくり教育」）を推進し、「本物に触れる」「一流の指導者や講師から直接指導を受ける」ことにより、「授業がわかる」「学校が楽しい」と回答する割合が増加しました。

学校と地域との連携を促進

「ようこそ『まちの先生』事業」やセーフティパトロール、街頭育成活動、現場実習受入れなどにより、学校と地域との連携を進めました。この結果、保護者や地域住民が授業や学校行事に参加する日数が大幅に増加しました。

耐震化率 100%に向け、学校の耐震補強を実施

市立小・中・養護学校の校舎・屋内運動場の耐震補強を計画的に実施し、平成 25 年度末時点の耐震化率は 94.5%まで進捗しており、平成 27 年度末には 100%を達成する見込みです。

2. いつでも、どこでも、だれでも学べるまち

「まちなかキャンパス長岡」の整備と活動の促進

平成 23 年に整備された「まちなかキャンパス長岡」での、まちなかカフェ、まちなか大学、まちなか大学院に加え、支所地域での出張カフェ講座、米百俵塾、市民プロデュース講座など、多彩な講座を開催しました。

様々な生涯学習の場を設置

科学博物館、馬高縄文館、公民館、図書館での各種講座の開催のほか、市内 3 大学 1 高専との包括連携協定を進め、多様な生涯学習の場を実現しました。

スポーツ・レクリエーション活動の推進

市内中学・高校生の全国大会県予選成績の向上や、市民が身近な場所で運動やスポーツを行う拠点となるコミュニティスポーツクラブの推進など、スポーツ・レクリエーション活動を推進しました。

3. 豊かな歴史と多様な文化にふれあうまち

長岡の歴史や文化の継承と海外との交流

国登録文化財として登録された建物数の増加など、歴史的文化的遺産の継承・活用を促進する一方で、青少年の海外派遣事業助成者を増加させるなど、国際理解も進めました。

戦災資料館へ平和学習に訪れる青少年や市外からの来館者が増加しています。新たな資料提供者や運営ボランティアの新規参加者も増えています。

市民による主体的・創造的な文化芸術活動を振興

平成 25 年度の文化施設の利用件数は平成 21 年度に比べ約 1,000 件増加した 9,323 件となっています。指定管理者による柔軟な事業展開などにより、文化施設の利用を促進しています。

第2章 生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現

1. 高齢者が生きがいを持って暮らせるまち

高齢者や介護者への支援体制を充実

介護保険適正化推進員を配置し介護保険サービスの適正化に取り組み、先進地として厚生労働省からも注目されました。また、地域密着型介護老人福祉施設・特定施設（平成21年度6施設→平成26年度11施設）・認知症対応型共同生活介護・通所介護施設（平成21年度35施設→平成26年度53施設）の充実を図りました。

高齢者や介護者を自助・共助で支えあう体制を充実

住宅改造に対する補助や低所得者の負担軽減などについて利用実績が伸びています。地域福祉連携会議の取り組み（平成21年度247回→平成26年度396回）や地域包括支援センターと連携した「シルバーささえ隊」など、地域で支えあう体制を進展させています。

各種介護予防事業を実施し、参加者の8割に維持・改善が見られました。また介護予防サークル参加者数（平成21年度5,850人→平成26年度6,190人）を増加させました。

2. 障害者が自立して暮らせるまち

障害者を支え、自立と社会参加を促進

障害者相談支援事業（相談件数 平成21年度40,637件→平成25年度58,248件）やグループホーム・ケアホーム利用者（平成21年度190人→平成25年度282人）を増加させるなど、地域で障害者を支えあう環境づくりを進めました。この結果、国の指針以上に施設入所者数は減少しています。

市役所での職場体験実習等受入事業に加え、平成25年度からは企業実習支援事業を実施するなど、障害者の自立と社会参加を促進する取組を進めています。また、「すこやか・ともしびまつり」の開催を通じて福祉について理解を深める取組を行っています。

3. 子どもの成長をともに喜び子育てを応援するまち

子育てを応援する環境を充実

「子育ての駅」での総合的な子育て支援の充実や、児童館・児童クラブ・放課後子ども教室の一体的な運用などにより、安全・安心な子育てができる環境づくりを進めています（子育ての駅利用登録世帯数：平成21年度10,292世帯→平成25年度19,000世帯）。

地域で子どもの預かりを行なうファミリーサポートセンターの運営、一時保育事業や子育て支援センター事業の充実を行い、保育サービスに対する満足度も向上させることが出来ました（平成21年度75.0%→平成25年度84.1%）。

4. 生涯を通して健やかに暮らせるまち

健康づくりや医療体制を充実

市内各地で検診を実施、土日にも検診日を設けました。また「地区健康づくり井戸端会議」の開催地域を増加させました。このほか、多世代健康づくりの拠点となる「タニタカフェ」のオープンなど全国に先駆けた取り組みを実施しています。

また、初期救急を担う平日・夜間急患診療所、休日急患歯科診療所、中越子ども急患センターの運営により、二次病院の急患診療従事者の負担が軽減されました。

5. 地域で支え合う福祉のまち

地域福祉を推進する体制を整備

総合福祉センターは実施設計が完了、平成27年度中の整備予定です。

生活保護者の就労支援員を1名から2名に増員し、個々の状況に合わせて支援をしています。平成25年度は47人を対象として選定、うち34人の就職に結びつけました（72.3%）。

第3章 都市の活力と魅力にあふれ、安全・安心で住みよいまちの実現

1. 市民が安全に安心して暮らせるまち

「日本一災害に強いまち」を目指して

降雨情報やカメラ映像の公開により、住民が迅速かつ安全に河川情報等を取得可能となり、より適切な避難行動が実現するとともに、重要地点の現地情報取得が迅速化され、的確な災害対応が可能となりました。

また、(公財)山の暮らし再生機構などによる中山間地域の創造的復興支援、(公財)中越防災安全推進機構と連携した震災アーカイブス・メモリアルセンターの開設など、災害の教訓を全国に発信しました。

地域の防災力・防犯力を向上

自主防災会の結成率を向上(平成21年度88.6%→平成26年度91.97%)、中越市民防災安全士を増加(平成21年度201人→平成26年度432人)、救急救命士の有資格者を増加(平成22年度58人→平成25年度68人)させるなど、地域の防災力を高めました。

市民の安全・安心を高める取り組みを推進した結果、市内における交通事故件数(平成21年度1,128件→平成25年度686件)が減少しました。

2. 活力を創出する交流基盤の充実したまち

広域幹線道路体系の整備

広域幹線道路網の骨格となるフェニックス大橋・左岸バイパスが開通。市道越路631号線、越路原バイパスを整備するとともに、与板地域において自転車歩行者道路、まちなか散策路・駐車場を整備するなど、広域、市内、地域内の道路整備を進めています。

公共交通、徒歩、自転車の利用促進

利用者の減少が進む中においても、バス路線の確保を行っています。またパークアンドライド用駐車場の整備や駐輪場の利便性向上など、公共交通や徒歩・自転車の利用を促進しています。

寺泊港を中心とした、にぎわいづくり

寺泊観光協会を中心に行った季節ごとの定期イベントが定着することで、年平均の観光客が254万人(平成17～21年度)から、283万人(平成23～25年度)へと、29万人増加させました。

3. 誰にでも優しく快適な住環境が整備されたまち

身近な生活環境の整備

市が単独で進める施設整備については、概ね計画通りに進んでいます。

生活道路については、側溝や路面の補修、危険箇所の安全対策を地域などと連携しつつ計画的に実施。都市公園は区画整理や大型開発により増加、市民手作り公園支援事業も推進しています。

長期優良住宅制度が浸透、稲葉団地にてシルバーハウジングを建設しました。

除雪機械の更新・補強や小学校8校の通学路に消雪パイプを新設するなど克雪・利雪対策を推進しています。

栃尾斎場の整備に着手したほか、パークアンドライド駐車場やバイオマスガス発電センター、多雪地域対応メガソーラーなどの整備を進めました。

快適な水環境づくりを推進

上水道については、浄水場の主要機器の更新を完了、下水道については中之島、寺泊地域において重点的に整備を行いました。

信濃川右岸堤防強靱化事業による堤防の多目的利用化、寺泊・和島において河川整備を行いました。

4. 個性と魅力ある都市空間を持つまち

長岡の顔となる中心市街地を整備

アオーレ長岡、再開発事業、大手スカイデッキなど中心市街地の整備を進めたことで、平成25年においては平成23年に比べ、大手通地区の平日の歩行者通行量は115.1%に増加、休日は196.7%と倍増しました。

地域資源を活かした景観づくりを推進

和島島崎地区街なみ環境整備事業、とちお「謙信の里」づくり整備事業など、歴史街並み整備事業を実施しました。また、平成26年度より景観法に基づく景観行政団体に移行しました。

第4章 環境にやさしく、豊かな自然と調和するまちの実現

1. 環境にやさしい循環型のまち

循環型・低炭素型まちづくりに対する意識の醸成

各種イベントや講演会の参加者数、エコロジー標語コンクールの応募者数を増加させました。またノーマイカーデーを毎年実施し、環境保全への意識啓発を実施。毎年約100団体、延べ6,000～7,000人の市民が環境保全に参加しています。各町内会ごとに春と秋の「クリーン作戦」の呼び掛けを行い、ゴミ袋等の支援を行っています。

生ごみバイオマスガス発電センターの整備・メガソーラーの誘致・設置

生ごみバイオマスガス発電センターを整備しました。その結果、リサイクル率の向上や焼却量・埋立量の削減、見学者の増加などの効果が現れています。

また、メガソーラーの誘致・設置などにより、太陽光発電システムの設置台数も大幅に増加しており、化石燃料に依存しすぎないまちづくりを推進しています。

- ・ごみの焼却量の減少：平成21年度 69,400トン → 平成25年度 51,941トン
- ・ごみの埋立量の減少：平成22年度 12,200㎡ → 平成25年度 9,142㎡
- ・資源物回収量の増加：平成25年度の対前年比 プラ容器1割増、古着類6割増
- ・東北電力長岡営業所管内の太陽光発電システム設置台数：
平成22年度 512台 → 平成25年度 1,010台

2. 身近な自然を守り育てるまち

水質汚濁の防止など、環境の保護を推進

市内河川(海域)の水質状況は、水質汚濁の代表的指標BODについて、すべての地点で環境基準を達成しています。

トキの分散飼育を開始

平成23年より寺泊夏戸でトキの分散飼育を開始し、併せて「トキと自然の学習館」を設置しました。平成26年9月26日に長岡生まれのトキ2羽が佐渡で自然放鳥されるなど、トキの安定的存続に貢献しています。

自然と共生する取組の実施

緑の募金等を原資として活用しながら、市民による憩いの里山づくりを進めました。

市有地をフィールドに「せきゆかいはつ縄文の森事業」など自然環境との共生に向けた取り組みが広がりだしました。

また、住民が先生となって里山を案内するなど、自然との共生が始まっています。

第5章 地域経済が元気で、働きやすいまちの実現

1. 強い農林水産業と魅力ある農村のあるまち

長岡の農林水産業を全国・世界へ発信

環境に配慮した「安全・安心・美味しい」長岡米を全国に発信しています。都市と農村の交流を促進しており、教育体験旅行者農家民泊受入れ軒数も平成22年度の60軒から平成26年度には150軒を超え、学校との信頼関係も生まれています。

海外へ向けて錦鯉を積極的にPRするため、平成23年度から外国大使館へ錦鯉の贈呈や山古志地域へ大使の招聘を行っています。これまでエジプト、サウジアラビア、カナダ大使館へ錦鯉を贈呈、同大使の長岡への招聘を行いました。また、外国人バイヤーや愛好家との交流を促進しています。

競争力のある農林水産業に向けた取組を促進

燃料費、肥料費の高騰などがある中、経営の効率化や農業生産基盤の整備が着実に進んでいます。

認定農業者、法人経営体、集落営農組織など、多様な担い手の育成を支援しつつ、農地の集積・集約化を促進しています。

農村環境・景観の整備・維持を目指して、農家民宿や農村レストラン、産直施設、農村女性起業などを支援しながら、競争力のある農林水産業を進めています。

2. 活気あふれる商業と新たなサービス産業をはぐくむまち

活気ある商店街づくりを推進

若手店主を中心とした中心商店街活性化組織の立上げや、商店街等の誘客・販売促進イベントなど、地域に根差した商店街づくりを進めました。

また、中小企業者の経営基盤や資金繰りの強化のために、一部融資の貸付条件や信用保証料の補助割合を拡充しています。

3. 高品質・高付加価値を生み出す産業のまち

地域産業の振興と「ものづくり人材」の育成

国内最大級の見本市への市内企業の共同出展や国外商談会への参加、県外見本市出展支援など、市内企業の販路拡大を支援しました。

「フロンティアチャレンジ事業」や「長岡ものづくり現場改善インストラクター養成スクール」などを実施し、市内企業の人材育成を進めています。

新産業の創出と企業立地の促進

地域特性を生かした新産業を創出すべく、ながおか新産業創造センターの運営や新技術開発への事業費補助、市内企業と学術機関とが連携して取り組む調査研究活動の支援を行っています。

また、用地取得費の一部補助などに加え、首都圏の企業を中心にアンケートや訪問調査を実施し、企業立地の促進を行っています。

4. “ながおか”らしさを感じる観光のまち

観光客の誘客を積極的に実施

誘客数において、継続的に対前年比5%増を目標とし、イベントの開催・連携や充実を図る取り組みを実施しています。長岡まつりや様々なイベントが定着し、観光入込み客数は平成23～25年の平均値で年818万人となり、平成17～21年度平均に比べ100万人以上増加しました。また「越後長岡」観光振興委員会が行う諸事業の拡充と組織の強化を行っています。

5. すぐれた人材、魅力的な仕事、安心して働ける環境のあるまち

働き場の確保を強力に推進

若者に対しコミュニケーショントレーニングや職業訓練を実施し、平成25年度からは「長岡地域若者サポートステーション」として、国と一体的な就労支援を行っています。

管内企業からの新規高等学校卒業者への求人を高めるよう取り組んでいます。平成22年度に64.6%だった求人充足率は、平成25年度には100%となりました。